

## 会議の要旨（議事録）

会議の名称	鳥栖市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会		
開催日時	平成28年11月28日 13:10~14:40	開催場所	鳥栖市役所2階第1会議室
出席者数	14人	傍聴人数	0人
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について</li> <li>2. 今後のスケジュールについて</li> </ol>		
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次第</li> <li>2. 第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画素案</li> <li>3. 第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画素案（パブコメ用概要版）</li> <li>4. 前回からの主な修正点・変更点</li> <li>5. 第2回策定委員会の意見</li> <li>6. 取組の方向の指標</li> <li>7. 第3期地域福祉計画等策定スケジュール</li> </ol>		
所管課	（課名）社会福祉課      （電話番号）85-3553		

### 第3回地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会議事録

#### 1 開 会

事務局（社会福祉課長）

#### 2 議事（1）第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について（資料1～5参照）

- （委員長）前回の策定委員会の時の意見についての返答や前回からの主な修正点変更点、今回特に数値目標等について、すべてというわけにはいかないが、検討されている。
- （委員）パブコメ用概要版5ページ、素案36ページ基本目標1の取組目標（3）の、「住民の自治意識の向上を目指します」という表現が分かりづらい。住民の自治意識の向上となると、結構大きな話になるので、「住民の自治意識の向上を図って、市民による福祉のまちづくりを促進する」というような表現の方がいいのではないかと思う。また、6ページ素案43ページの「取組の方向」の2つめの、「災害時や緊急の支援体制づくり」の最後の行「・・・の充実が求められています」は、ほかの項目はほとんどは「目指します」といった感じで推進する姿勢を見せているので、「充実を図ります」とか、そういう表現がよいと思う。
- （事務局）5ページ、6ページについて、表現を変えるよう検討する。
- （委員）市民アンケートは、前回の資料の中で、36.9%しか回答がこなかったのは、内容が難しかったためではないかと前回の意見の中で出ていた。今回少し分かりやすい内容にすると言われていたが、回収率の具体的な数値目標はあるのか。
- （事務局）回収率について目標値設定はできないが、表現をもっと分かりやすくなるように工夫し、回答しやすいようなアンケート内容になるよう考慮したい。
- （事務局）計画自体にアンケートの回収率の向上は特に盛り込んでいないが、この計画を作るにあたっての基礎調査ということで、アンケート調査を実施している。せっかくアンケート調査を実施しても30数%程度の回答率にとどまっているという原因が何かということについて、前回委員の皆様方から表現が難しいのではというご指摘があったので、その点については内容を見直したいが、経年変化でのアンケート調査を取っているため、前回と同じような設問にすることで、住民意識の変化の把握という大事な調査項目もあるため、アンケートの設問自体は大きくは変えられないが、回答しやすいような内容、あるいは、回答してみたいと思いたくなるようなレイアウトとかで工夫していきたい。
- （委員長）計画策定のための基礎調査は、ほかの計画にもあるので鳥栖市がほかの市町村と比べてどうなのか、あるいは、調査の方法も見ながらの検討方法もある。大体30数%というのはほかの調査をみても一般的といえれば一般的ではあるが、回収率を上げる努力はやっていかなければいけない。
- （委員）基礎調査が計画の基盤になるため、回収率が上ることが重要かと思う。
- （委員長）委員の意見は、それぞれの団体の立場を踏まえてのご意見でもあり、住民座談会などいろいろな方式を実施されて、トータルで意見を吸い上げている。いずれにしても、意見を出来るだけ汲んでいくということが大事だと思う。
- （委員）「取組の方向の指標」3ページ一番下の取組の目標値について、ほかの項目は数値を上げてあるのに、ここだけ（H23）と目標値が変わらないというのはどういう意味なのか。ほかの項目と同じようにあげた方がいいのではないか。理由を教えてください。
- （事務局）目標値は、23年度から28年度の伸び率ということで、全体的に設定方法をあわせているが、ご指摘部分の実績は、今回が前回に比べて数値が下がっている。アンケートの対象者や配布割合の前回との違い、というものがあるが、まずは前回の23年度の値に引き上げたい。
- （委員長）前回から数値が下がったから引き上げるという説明だが、ここは、安心して福祉サービスの利用しやすい仕組みをどう作るのかということで、利用しづらい人、判断能力が不十分な方、福祉サービスに対してどこに行けばいいか分からない人、といったことを含めて、利用しやすい仕組みをどう作っていくかということである。具体的な施策をされているとは思いますが、そこが充分表に出ていないのではないか。別の言葉を置き換えれば権利擁護という意味にもなる。利用者とサービス提供事業者との関係を対等にしていかないといけないというのがひとつの方向だが、実際はサービス提供事業者の方が圧倒的に情報量や交渉力など、すべて強い。だから、利用者を守るための仕組みをどう整備していくのかとい

うことになる。成年後見人の利用支援事業とか、鳥栖市社協であれば安心サポートとか、苦情解決とか、様々なことをされているが、うまく表現されていないのではないか。アンケート調査での率を今後上げるために具体的にどう施策を展開するのかというふうになっていかないといけない。

- (委員) 73ページの福祉ボランティアの登録者実績数が1921人で32年度目標値が2620人になっている。この、福祉ボランティア登録者数というのは、たとえば、いきいきサロンだとか、ボランティア連絡協議会だとか、どういう団体がこの中に網羅されているのか。
- (事務局) 福祉ボランティア登録者数については、現在社協で取り扱っているボランティア保険の加入者数を掲載している。サロンの協力者など、保険に加入されていない方については把握できていない。ボランティア連絡協議会に加入されている会員については、全員保険加入しているので、この中に含まれる。
- (委員) 74ページの「ふれあい広場の開催」の下「今後の・・・」のところで、「参加団体とともに」という文言について、以前、実行委員会を設置したことがあって、全体の実行委員会は機能していたが、その中の企画委員会みたいなものがうまく機能せず、企画は社協でされていた。「参加団体と共に・・・」の参加団体というのはどのような団体が参加団体なのか。
- (事務局) ふれあい広場については実行委員会形式ではなく、参加団体に参加意向を聞いて、事前に2回程度打ち合わせを行っている。事前アンケートや反省会の中で出された意見を基に、来年度についてまず内部で検討し、それを基にまた意見をいただきながらということで、参加団体とともにという言葉を使っている。実行委員会については、現状の2回の説明会でも、団体によっては簡素化してほしいという意見もあるので、アンケート等での「こういう場であってほしい」という意見を参考に社協でまとめ、それに対してまたご意見をいただくというかたちになっている。そういった意味で、参加団体さんとともにという言葉を使っている。
- (委員長) その後の文章の「市民が福祉ボランティア活動や福祉活動に・・・」で、福祉ボランティア活動と福祉活動は同じ意味で重複しているのではないか。市民活動、福祉を除いたボランティア活動といろいろあるが、ここでは福祉活動といているので、福祉に関するボランティア活動のことになる。
- (事務局) 文言を整理する。
- (委員) 41ページ市民の役割で、「定年後は・・・」について、老人クラブは定年後しか入れないのか。
- (委員) 町々によって今は参加者が少ないから入会基準年齢を下げる場所もあるが、実際には60歳位を目安にやっていて、統一はしていないと思う。
- (委員) 「定年後」とあるが、今はもう70、80歳でも働かれていますので、そういう方たちも実際には活動をされている人たちと触れ合うようにした方がいいと思う。80歳になって仕事をやめて、そこからシルバーセンターとか、ボランティア活動、老人クラブという入り方よりは、どこか重なりがあった方が入りやすいと思う。
- (委員) 年齢的に65歳からが大体老人クラブに入る年齢になっているそうだが、地域によって違ってくるので、そういう意味ではダブられても構わないと思う。
- (委員) 定年制が5年後に65歳に伸びた時に、定年後と記載していると合わなくなるのではないか。
- (委員) うちの区では60歳以上は全員老人クラブ会員で、200人超している。参加はご本人の意思で、呼びかけは全員にしている。食事会をするときとかは全員に案内を配って参加を促している。会員数は一番多い。
- (事務局) 今、働き方も変わってきて、60歳定年もあれば70歳定年もある。最初「定年後」と書いたときには、お勤めをされていたのをやめた後に何もしないというよりはこういった活動をしてください、活動しましょうという意味で書いていたが、60歳で老人クラブに入れるところもあるので、ここは、働きながらでも老人クラブで活動できるような表現にすることとしたい。
- (委員) 70ページの「関係団体と調整し、平成30年度実施に向けて取り組みます」というのは、なにかイメージされているものがあるのか。
- (事務局) 関係団体というのはスクールソーシャルワーカーや民生委員のことである。

- (委員長) 「食糧等の提供者の確保」とか、「支援体制の提供」というところだけみると、子どもに対するフードバンクか何かを考えているのかという感じがするが、具体的に、中身をどんな事業にするのかは、今からの検討事項なのか。
- (事務局) お寺などから提供いただき、一方で、必要とされる方などの範囲等を整理する。まず重視したいところは、子供のいる困窮世帯で、スクールソーシャルワーカーなどと一緒に進めている。
- (委員) 今いろんな地域で子ども食堂やなんかが出来てきているが、考えているのか。
- (事務局) 子ども食堂については、社協の事業以外でも取組をされている。子ども食堂も常設は難しいが、そういった社会問題を知っていただくという機会にはなるかと思っている。社協が考えているのは継続的な部分での自立に向けた支援で、状況をよく把握されているスクールソーシャルワーカーの方などと連絡を取りながら支援をしていく検討をしていきたい。
- (委員) 子ども食堂については、今すごい勢いで増えているが、民間の有志の方がほとんどであるため、これがどこまで続いていくのか懸念している。あるところでは続けられなくて、やめるところもそろそろ出始めているので、少しでも行政的なところが関連しながら続けられたらと思う。
- (委員長) たしかに、行政に支援を求める声はあると思うが、どこまでということになると、難しい面もあるかと思う。
- (事務局) こうした福祉の問題に関しては、なかなか行政ばかりで取り組むのが難しくなってきた。今回の福祉計画でも市民の役割、行政の役割、各種団体の役割とそれぞれに定めている。行政はあくまでも市民の方、団体の方がどうしてもできない部分は、やはり行政や公共的な団体である社協などが取り組まなければならないとは考えている。そういったことも含めて、民間でやってもらえるところは、どしどし支援をしていきたいし、逆に民間でどんどん進めていただくことについては大賛成というか、どうしてもそこで行政でないといけないことがでてきたときには、行政等で対処していくべきというふう考えている。
- (委員) うちの町は、たまたま子ども食堂をやっていて、最初に区民の総会のときに話があって、町内の有志の方が自分のところで採れた野菜とかを持ってくる。調理師免許を持った方がその中に入って調理する。町も一応予算の中で、わずかだが、お金を出している。有志の方たちの話を聞くと、市とかの補助は逆に受けたくない。受けると自分たちができなくなったときにやめられなくなる。だから、出来る範囲で、町内で賛同者を増やししながら出来る限り続けていきたいということだった。数は少ないが、今は月に1回。町の狙いとしては、公民館は利用者が少ないので、こういったことをきっかけに集まっていればと考えている。
- (委員) 何人くらいお集まりになるのか。
- (委員) 貧困という言葉が先に出ると子供も寄りにくいというがあるので、無料ではなく、子供は100円、大人は300円で、20~30人みえているようだ。
- (委員) 昨日、佐賀で、子ども食堂をやっている方のお話で、自分たちの募金活動で運営ができると。地元の野菜をいただいて、トントンでいけると。行政の支援をあてにはしないで運営できているという発表があった。
- (委員長) 市民の助け合いというのが根底にあるのだと思う。
- (委員) 行政の支援を全部受けるというのではなく、今年度は10万円の助成を受けてみようとか、今年度は自分たちでやってみようとか、そういう選択肢があると、助成金は前年度に申請しないといいただけないものだろうが、やわらかな施策があったら、長続きしていけるのではないかと思う。
- (委員長) 工夫する余地はあるかもしれないが、行政が予算をかけてするというより、社会福祉協議会でそういった支援ができないのかとか、組織化できないのかといった検討は余地があるのかもしれない。
- (事務局) ほかの社協でフードバンク等をされているときの話なのだが、食の面で困っている世帯がおられるということを知らなかった人たちが、自分のところで余っているので活用して下さいという協力が広まっているみたいなので、そういうところを社協がPRして、困っている方に対して何かできる方からの働きかけを、ワンクッションとなつてつなげていくという役割が社協の役割と思っているので、そういったところも含めて、この支援というのを考えていきたい。

(委員) シルバー人材センタについて、今後の国の財政を考えると、定年制というのがだんだん繰り延べられてきて65歳になってきている。年金は少なくなってきている。そのなかで、シルバー人材センターをどんどん強化して、アピールすることと、若い人達は年金を積み立てても、もらえないのではないかという不満があって、年金も納めなくなってきていることを、どうマッチングさせるかというのを、福祉の中で考える。加えて、財政がだんだん厳しくなってきていることを現実のものとしてとらえていくには、システムについて、こういう場で話し合う必要性も今からだんだん出てくると思う。しょうがないではすまされないので、子供だけじゃなくて老人の貧困っていう問題も当然のことながら出てくるので、そういう部分をシルバー人材センターがいいのか、シルバー人材センターバンクみたいなのを積極的にアピールしていくとか、登録者を増やしていくという動きもだんだん必要になってくるのではないか。

(委員長) 今、年金改革などが国会で審議されている。そういう、元気な高齢者の活躍の場等については、福祉計画の中でも規定されている。

(事務局) シルバー人材センターの登録者数は微減している。大幅に減ってはいないが、微減というのが正直なところである。シルバー人材センターは、センターに登録をして、そこから仕事の紹介を受けてという形でお勤めされるのがほとんどで、たとえば、シルバー人材センターで草刈なども結構多く受注されているが、草刈が、夏の暑い間にお仕事が集中するため、なかなか需要と供給がマッチングしていないところもあるようで、シルバー人材センターも組織の拡大は一生懸命やってはいるが、そういった自分がやりたい仕事と実際にある仕事とがうまくいっていないというところもあるようだ。

(委員) 業務を限定するというよりも、会社でも人手不足が恒常化してきているので、そういうところから、登録というか、マッチングしていくということが非常に大切だと思う。それと、69ページ「65歳以上の一人暮らし老人会食会」の参加者が556人で、27年度の65歳以上の高齢者のひとり暮らしが2160世帯である中で、25.7%の参加者しかいられない。地域包括でも独居老人の方を訪ねて行って、いろいろお聞きしようとしても、ドアもあけていただけない。特に、鳥栖市外から入ってこられた方。そういった人たちの社会参画を通じて、コミュニケーション機会の提供につなげていくための対策を、見回りを含めてどういうふうなかたちで増やしていくのかが今後の課題である。

(事務局) 「一人暮らし老人会食会」については、ここ数年、参加者数は伸びていない。実施町もほぼ同じところが実施されている。社協も町会等で呼びかけはしているが、伸びていない。ふれあいいきいきサロンは、同じく、高齢者を対象とした事業であり、社協で地区社協を通して支援している。そこの兼ね合いもあるので、二つ合わせたところで、どういったかたちで地域での高齢者の居場所や社会参加の場を今後広げていくことが出来るのかということ、今後検討していきたいと思っている。いきいきサロンについては、参加者の増減について即答は出来かねるが、回数は増えてきている。増えるように社協でも支援の内容等の検討をしていて、実施町区も伸びてきているし、年間の回数も伸びている。

(委員) 34ページ「行政の取組」で、下から2番目の「・・活動を支援します」の、支援というのは、社会福祉協議会だけではなく、行政でもされるのか。

(事務局) 市からこの事業に対して社会福祉協議会に助成をしている。それを「支援」という表現で書いていて、業務は社会福祉協議会に委託している。

議事(2) 今後のスケジュールについて(資料6参照)

(質問なし)

### 3 その他

- ・ 本日はいただいたご意見、ご質問、回答したことについて、今回の素案の若干表現の違い等の修正が必要だが、大筋でご了承いただいたと考えている。表現については、私たちに一任をお願いしたい。
- ・ 次回の策定委員会につきましては、2月の下旬を予定している。